

学校教育目標	自分大好き 友だち大好き 潮田大好き ~学校教育の基盤:人権教育(自尊感情・関係形成・多文化共生)				
	○ねばり強く問題解決に取り組む、学ぶ喜びを実感できる子を育てます。(自尊感情:知) ○規範意識をもち、自信をもって他者とよりよい関係を築くことができる子を育てます。(自尊感情・関係形成:徳) ○自らの健康に関心をもち、自分の生活に生かせる子を育てます。(自尊感情:体) ○潮田の町や人やものとかかわり、地域と共に生きる子を育てます。(関係形成・多文化共生:公) ○自国の伝統や文化のよさを知り、いろいろな国とのつながりを大切にすることを育てます。(多文化共生:開)				
学校概要	創立 154 周年	学校長 前島 潤	副校長 鈴木 誠	2 学期制	一般学級: 20 個別支援学級: 6
	児童生徒数: 605 人	主な関係校: 潮田中学校 下野谷小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 <自分づくりに関する力> <問題発見・解決能力> <言語能力>	潮田中 ブロック 潮田中学校 下野谷小学校	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 「自ら考え、判断・行動することができず」 ~社会に出て力強く生き抜くために~ ①基礎学力定着と応用力の育成…小中連携して、多様な学び方、学びの場を工夫・実践する。 ②コミュニケーション能力と協調性…気持ちを伝え、理解するコミュニケーション能力の向上と、いじめ防止・人権意識の啓発に努め、多様性を認め合う教育活動を推進する。 ③思考力と想像力…自ら考え、結果を想像する力を育む。気持ちを大切にすることを教育活動で実践する。 ④心身を大切にすること…自らを認め、心身を大切にすることを育み、自己有用感・肯定感の向上を図る。 ⑤生きる力…夢や目標をもち、実現に向け努力する力と、社会で必要とされる規律について学び、実践できる力を身に付ける。
---	------------------------------------	--

中期取組目標 ○他者との豊かなかかわりを通して、一人ひとりが自己有用感をもち、互いの違いを認め合い、安心して楽しく学校生活を送ることができるようにします。 ・本校の特色でもある国籍の違いや、環境の違い、多くの大人とのかかわりを通して、お互いのことを理解し、自分自身や人を大事にし、楽しく学校生活を送れるようになります。 ・先生や、友だち、共学舎の方とのかかわりの中で、感謝の気持ちを育てるとともに、誰かの役に立つ経験を増やし、自己有用感を育てます。 ○どんな困難な問題があっても、解決策を見出し、たくましく本気で生きる力を育てます。 ・様々な背景、様々な問題があっても、それを乗り越えようとする心情を育て、実際に解決できるよう支援していきます。 ○自ら考え、行動できる力をつけます。 ・学習、生活の中で、自分自身で考え、判断し、行動できる子どもを育てます。

重点取組分野		具体的取組
知	学力向上	①子どもの思いや願いを大切に、子どもが主体的・協働的に課題解決に取り組む授業をつくる。②自分の思いを適切な表現で相手に伝えられるように、言葉集めや読み聞かせ、音読、日記、作文、スピーチ等を通して語彙力・表現力を養う。③朝の時間を活用したりドリル学習や放課後の学習支援を実施し、基礎基本となる学力の向上に努める。④校内重点研究を行い、授業を伴う研究を通して、教員一人ひとりの授業力向上に努める。
担当	研究部	
徳	人権教育	①研修等を通して職員の人権意識を高めるとともに、人権週間や道徳を中心とする授業等、児童が人権について考え、思いを発信できる機会を大切に、誰もが安心して生活できる学校風土をつくる。②日常的な児童の見とりに大切にするとともに、児童指導連絡会やY-Pの活用によって児童一人ひとりの理解を深め、「全ての教職員で子どもを育てる」精神の基、個に寄り添った支援を行う。③人権教育センター校として、市、区、およびブロックとの連携を図りながら、人権教育を推進する。
担当	人権部	
体	健やかな体	①児童一人ひとりが基本的な生活習慣を身に付け、健やかに毎日を過ごすことができるよう、家庭との連携を積極的に行う。②学校保健委員会や特別活動、保健学習等の授業において、課題となる生活習慣について取り上げ、児童自身が改善を図ろうとする実践的な態度を育成する。③体力テストのデータを活用し、児童の体力の課題をつかみ、体育学習や体育的行事、集会等を通して体力向上に向けた課題の解決に取り組む。
担当	体育部	
公開	自分づくり教育	①キャリアパスポートの活用や、学習・活動後のふり返りの時間を大切に、子ども一人ひとりがメタ認知することを通して、自分の生活や生き方をよりよくしていく姿勢を育む。 ②共学舎の方々を中心とした学校教育ボランティアの登用を積極的に進め、児童が身近な大人に憧れをもち、自己の生き方について考えるキャリア教育につなげる。
担当	特活部	
いじめへの対応		①月に一度の(臨時も)いじめ防止対策委員会の他、主幹会、児童指導全体会において、情報の共有を図るとともに、日々、児童一人ひとりの見取りに基づいた児童理解に努める。②児童アンケートやY-Pの実施により児童一人ひとりや学級集団の実態を把握する。③いじめが起きない学校風土づくりに向けて、未然防止に向けた取り組みを推進するとともに、事案に対しては組織的な対応で早期解決を図る。④子ども会議など、児童が自らいじめについて考え、発信する場を設定する。
担当		
人材育成・組織運営(働き方)		①3年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、隔月1回の活動を継続して行う。また、先輩教員とペアを組み、相談しやすい環境をつくる。②月に1回主幹会及び学年主任会を行い、ミドルリーダー等が全体を見通して学校運営していく場を設定する。③ICTを活用した事務や情報の効率化を図ったり、教職員の意見を業務に反映させたりすることで、組織的な働き方改革につなげる。
担当	教務・メンター研	
多文化共生(国際教室)		①外国籍や外国につながる児童の支援として、国際教室での取り出し学習、入り込み指導、言葉でのコミュニケーションを支援する日本語指導等の運営を充実させ、日々の生活や学習に自信をもつことができるようにする。 ②外国籍や外国につながる児童がルーツとなる国に誇りをもち、アイデンティティを確立するために、「うしおだYY」の活動を充実させるとともに、活動の発信を通して、全校児童が外国の文化へ理解を深め、共生の精神を育むことができるようにする。
担当	人権部・国際担当	
特別支援教育		①児童の実態把握に努め、個別支援学級を中心に、児童一人ひとりが安心して学ぶことができる環境をつくることと、児童の思いや願いを捉えながら改善に取り組む。 ②誰一人取り残さない教育活動の実現に向けて、支援を要する児童を中心に、教材や指導方法、場の設定を工夫するなど、個に応じたきめ細かな支援・指導を行う。
担当	児童指導部・特別支援コーディネーター	
児童指導		①誰もが安心して学校生活を送るため、教職員、児童、家庭が「潮田スタンダード」への理解を共有できるように、指導や発信に取り組む。②「潮田スタンダード」などのきまりがなぜ必要なのか、全体の場や個に応じた指導において考えさせることで児童の規範意識を育て、地域社会においても自分で考え、正しい行動ができるようにする。③週一回の児童指導連絡会において、気になる児童や事案の共有に努めるとともに、教職員全体で対応考え、誰もが同じ指導を行うことができるようにする。
担当	児童指導部	
地域連携・共学舎		①学校運営協議会では、開催場所をその都度変えて地域の方と授業参観を実施し、目指す子どもの姿について語り合う。 ②潮田共学舎の4部門(見守り・学習サポート・読書サポート・環境整備)での学校支援が、充実した取組となるよう、定例会等で連携を図る。教員と共学舎と一緒に活動できるように計画を立てる。 ③地域の「ひと・もの・こと」を材とした授業や活動づくりを推進する。
担当	主幹部	